

## (一財)自治体国際化協会ロンドン事務所マンスリートピック(2014年11月)

【東ロンドンの地方自治体の経済振興策 ～ ファッション産業のメッカ創設と、専用の仮設の施設を利用したテクノロジー産業のプロモーション】

### 要旨

・東ロンドンのハックニー区は、貧困が深刻なエリアであるが、同時に、若手のデザイナーやアーティスト、ミュージシャンなどが集まる流行の最先端を行く街としても知られている。また、テクノロジー産業やデジタル産業、クリエイティブ産業等の集積地区である「テック・シティ」はハックニー区に位置している。

・ハックニー区は、区の中心部であるハックニー・セントラル地域の再生計画の一環として、同地域内にファッション産業の中心地を誕生させるプロジェクトを進めている。プロジェクトの柱は、2つのファッションビルを建設する計画である。ファッションビルで創出される雇用を区のプログラムを通して失業者の区民に優先的に割り当てるなど、雇用支援も行う。

・ハックニー区はまた、2012年ロンドン・オリンピックの期間中、仮設の施設「ハックニー・ハウス」を区内に造り、区内のテクノロジー産業やデジタル産業、クリエイティブ産業等をプロモーションし、投資誘致、企業誘致を行った。その後、「ハックニー・ハウス」は米国のイベントにも参加し、同様に区内の産業の周知宣伝等を行っている。

本報告書では、ロンドン東部に位置するハックニー (Hackney) 区による経済振興策を紹介する。ハックニー区は、伝統的に「イースト・エンド (East End)」と呼ばれるロンドン東部のエリアの一部であり、人口は24万6,300人である<sup>1</sup>。30以上あるロンドンの区の中でも特に貧困地区として知られており、政府が2010年に発表した調査では、イングランドで2番目に貧困度が深刻な地方自治体であるとの結果が示された<sup>2</sup>。2011年夏にロンドンとイングランドの複数の地方都市で若者による大規模な暴動が発生し、商店街の店の略奪などが相次いだ際、ハックニー区は特に大きな被害を受けた地域の1つだった。

その一方で、ハックニー区は、若手のデザイナーやアーティスト、ミュージシャンなどが集まる流行の最先端を行く街としても知られている。区内には、こうした若者たちが訪れるカフェやギャラリー、ブティックなどが数多く並んでいる。また、テクノロジー産業

<sup>1</sup> 2011年国勢調査より。

<sup>2</sup> <http://www.hackney.gov.uk/Assets/Documents/deprivation-findings.pdf>

やデジタル産業、クリエイティブ産業等の集積地区である「テック・シティ (Tech City)」<sup>3</sup>は、ハックニー区のショーディッチ (Shoreditch) 地区を中心として形成されており、比較的年齢が若い住民が多いことが特徴である。

#### バーバリーのアウトレット店が既に成功、日本や中国から多くの買い物客

ハックニー区は現在、区の中心部に位置するハックニー・セントラル (Hackney Central) と呼ばれる地域の再生計画の一環として、同地域内にファッション産業の中心地を誕生させるプロジェクトを進めている。これは、ハックニー・セントラルのモーニング・レーン (Morning Lane) とチャタム・プレース (Chatham Place) という2つの通りを中心として、ファッション産業の振興、地域での雇用創出、職業訓練の場の提供などを行うものであり、2012年1月に発表された。プロジェクトの柱は、モーニング・レーンに「ファッション・ハブ (Fashion Hub)」と呼ばれる2つのファッションビルを建設する計画である。

ロンドンのイースト・エンド地区は、かつて縫製業が栄えたことで知られており、1938年のロンドン・カウンティ・カウンシル (London County Council) <sup>4</sup>の記録によると、当時ハックニー区に2,071カ所あった工場または作業所のうち、約半数は衣服または靴を製造していた<sup>5</sup>。

また、英国の高級衣料品ブランド「バーバリー (Burberry)」は、1990年代に、前述の2つの通りの1つであるチャタム・プレースにアウトレット店を開店し、大きな成功を集めている。ハックニー区によると、同店の年間売上高は、バーバリーの全世界の店舗で最も高いおよそ1億ポンドに上る。特に中国人や日本人に人気があり、年間65万~80万人に達する同店の買い物客のうち、35万人が極東地域からの客で占められている。

ハックニー区は、このようなロンドンの縫製業の中心地であった歴史を背景に、バーバリーの店の人気を足掛かりにして、ハックニー・セントラルにファッションのメッカを誕生させるプロジェクトを成功させたい考えである。このプロジェクトでは既に、チャタム・プレース及びモーニング・レーンに、やはり英国の高級衣料品ブランドである「プリングル (Pringle)」や「アクアスキュータム (Aquascutum)」、高級小物・アクセサリー店「ハルシオン・デイズ (Halcyon Days)」などの店舗を誘致することに成功している。

「ファッション・ハブ」と呼ばれる2つのファッションビルを建設する計画は、不動産

<sup>3</sup> 「テック・シティ」については、2013年12月のマンスリートピック「政府の支援で経済振興が図られているロンドン内の地区について ~ テクノロジー産業の集積地「テック・シティ」など」を参照のこと。

<sup>4</sup> 1889~1965年に設置されていたロンドンの最初の広域自治体。

<sup>5</sup> "East End 'fashion hub' woos West End trade" 12 October 2012, Financial Times

開発会社のマンハッタン・ロフト・コーポレーション (Manhattan Loft Corporation) などが、ハックニー区との協力で進めている。2つのビルには、高級ブランドのブティックのほか、地元の若手デザイナーがデザインした衣料品を販売できるスペースも入る。さらに、実践的な職業訓練を通して洋裁技術などを学べる施設や、洋服の製作スタジオ、レストランやカフェなども入る。また、「ファッション・ハブ」の建設予定地の向かいに位置する鉄道の高架橋の下のアーチ型部分を再開発し、ブティックやレストラン、カフェなどをオープンさせる計画も同時に進められている。

2つのビルで創出されるおよそ400の雇用の半分は、ハックニー区の雇用支援プログラム「ウェイズ・イントゥ・ワーク (Ways into Work)」を通して、区の住民に割り当てられる。これらの仕事には、ブティックの販売員、洋服の縫製師及びデザイナー、ビルの警備員、レストラン及びカフェの従業員などが含まれ、特に同区住民の失業者に優先的に割り当てられる。既に、前述のモーニング・レーンに开店した「アクアスキュータム」の店舗の従業員の大半は、「ウェイズ・イントゥ・ワーク」を通して雇用されている。

ハックニー・セントラルの再開発計画には、このほかにも、◎「ファッション・ハブ」付近の公共スペースの改善、◎モーニング・レーンの西側に位置する大通りに並ぶ小売店の外観の改善 ー などが含まれている。これら一連の計画の資金としては、「ロンドン市長地域再生ファンド (Mayor's Regeneration Fund)」<sup>6</sup>からハックニー区に配分された200万ポンドの助成金と、ハックニー区及びマンハッタン・ロフト・コーポレーションなどが拠出した260万ポンドの資金が充てられている。鉄道の高架橋の下のアーチ型部分を商業施設に改修する計画には、鉄道インフラを保有・管理する「ネットワーク・レール (Network Rail)」社が330万ポンドを拠出している。

マンハッタン・ロフト・コーポレーションによると、「ファッション・ハブ」の开店は、2015年春を予定している。2013年10月に「ファッション・ハブ」の建築許可申請がハックニー区から承認された際、同区のガイ・ニコルソン区議会議員（経済開発担当内閣メンバー）は、「我々の主な目標の1つは、ファッション・ハブが地域に雇用を創出し、区民が新しいビジネスを始める機会を提供することである。このような新しい開発計画が地域全体に資することが重要である」と述べ、このプロジェクトが、高級ブランド店で買い物ができる富裕層のみならず、区民全体の利益となるよう意図していることを強調していた。

---

<sup>6</sup> 「ロンドン市長地域再生ファンド」は、上で述べた2011年夏の暴動で深刻な打撃を受けた商店街などを再生することを目的とした計7,000万ポンドの助成金で、ハックニー区を含むロンドンの8つの区に配分された。

## オリンピック契機に仮設ハウスでのテクノロジー産業などの周知宣伝、企業誘致を開始

冒頭で、テクノロジー産業やデジタル産業、クリエイティブ産業等の集積地区である「テック・シティ」がハックニー区に位置すると述べたが、同区は、2012年のロンドン・オリンピックをきっかけに、区内のこれらの産業のプロモーションなどを目的とした新たなプロジェクトを開始した。

2012年に行われたロンドン・オリンピックの主会場であったオリンピック・パークは、ハックニー区を含むロンドンの4つの区にまたがっていた。海外から多くの人を訪れることが予想されたこの機会を捉え、ハックニー区は、ロンドン・オリンピックが実施された2012年7月末～8月中旬、「ハックニー・ハウス (Hackney House)」と名付けた仮設の施設をショーディッチ地区に設置した。その目的は、デジタル産業やテクノロジー産業、クリエイティブ産業を中心とした区内の産業のプロモーション、これらの分野での海外からの企業誘致及び投資誘致などであった。施設の広さはおよそ1万平方フィート（約930平方メートル）で、デザインは地元の建築事務所が手掛けた。

「ハックニー・ハウス」では、オリンピックの期間中を通して、ハックニー区を拠点とするデジタル産業やテクノロジー産業、クリエイティブ産業の企業のサービスや製品を紹介する展示やイベント、会議やセミナーなどが多数開催された。また、ハックニー区を含むロンドン東部で事業を展開したい海外の起業家が交流できるイベントなども開催され、ネットワーキングの場としても活用された。さらに、英国貿易・投資庁 (UK Trade & Investment, UKTI)<sup>7</sup>は、ハックニー・ハウス内に専用のスペースを設け、「テック・シティ」のデジタル産業やテクノロジー産業を海外の投資家に紹介した。デジタル産業やテクノロジー産業のみならず、ハックニー区の小売業や外食産業、ファッション産業、観光産業なども紹介されたほか、地元のミュージシャンやコメディアンなどによるライブ演奏やショーも行われた。

「ハックニー・ハウス」は大きな成功を収め、パートナー組織の1つであったシティ・ユニバーシティ・ロンドンによると、オリンピックの全期間を通じた来訪者数は1万2,000人に達した。ハックニー区によると、「ハックニー・ハウス」の設置によって区内に新たに5つのホテルがオープンすることが決まるなど、同施設がハックニー区にもたらした投資額は総額で10億ポンド（推定）に上った。

この成功を足掛かりに、ハックニー区は、2013年と2014年、米国テキサス州オースティン市の「サウス・バイ・サウスウエスト (South By Southwest, SXSW)」と呼ばれるイベン

<sup>7</sup> 海外企業による対英投資、英企業による海外での事業展開を支援する政府機関。

トに「ハックニー・ハウス」として参加し、同区の産業のプロモーションを行った。「サウス・バイ・サウス・ウェスト」は、オースティン市で毎年 3 月に行われているテクノロジー、音楽、映画のフェスティバルである。ハックニー区は今年、オースティン市内の 7,000 平方フィート（約 650 平方メートル）のスペースに「ハックニー・ハウス」を造り、ハックニー区内のおよそ 100 の企業が参加した。講演会やワークショップ、ネットワーキングイベントなどの様々なイベントが開催され、約 4,000 人が来場した。「ハックニー・ハウス」は、2015 年も「サウス・バイ・サウス・ウェスト」に参加する予定である。

こうした交流の結果、ハックニー区とオースティン市は 2014 年、「姉妹都市合意 (Sister City agreement)」を締結した。その目的は、ハイテク及びデジタルメディア、クリエイティブ産業などの分野での交流促進である。ハックニー区はさらに最近、区内の企業による輸出促進と海外との関係構築促進を目的として、オスロ市、ベルリン市、バルセロナ市及びニューヨーク市と「ビジネス友好合意 (Business Friendship Agreement)」を締結した。ハックニー区によると、これらの合意は、形だけで実態のない姉妹都市提携ではなく、具体的な目的を持つ都市間の国際協力事業の一環として締結された。